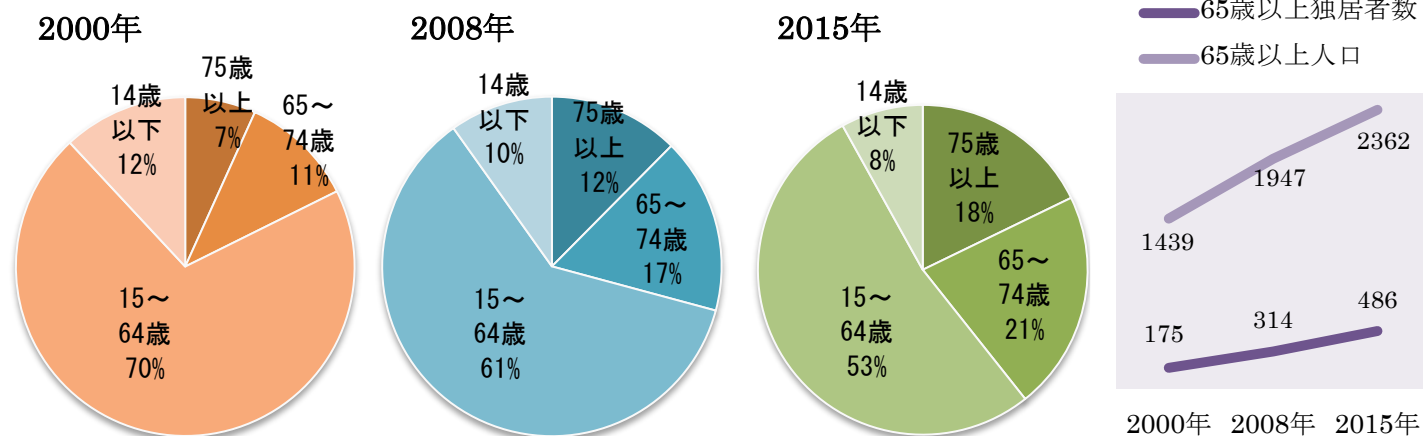


数字に見る新木地区の人口構成

虹の家では、サービスの提供や運営状況を地域の皆さんや福祉の専門家の方々に報告するために「運営推進会議」を2か月ごとに開催しています。9月の会議で、我孫子市高齢者支援課の方から提供された資料に興味深いデータがありましたので、ここにご紹介いたします。

下の3つの円グラフは介護保険制度がスタートした2000年以降の新木地区（新木、新木野1～4丁目、江蔵地）の人口構成の推移を表したものです。一目見てわかることは、65歳以上の高齢化率が一貫して増加している点です。2000年当時に18%（市平均11% 国平均17%）だったのが2015年には39%（市平均28% 国平均26%）にまで急増しています。字別では新木野2丁目の53%を筆頭に、新木野1丁目、4丁目など、4割を超える地域も多くみられ、新木地区が我孫子市内でも有数の高齢化が進んだ地区であり、しかも、かなり早いペースで高齢化しつつあることがうかがえます。75歳以上の方に限ってみても、その増加傾向は顕著で、現在は、新木地区全体の約5人に1人が75歳以上という状況です。

また、いちばん右の折れ線グラフからも読み取れるように、独居の高齢者の方も増え続け、直近では65歳以上の5人に1人が独居という状況です。独居率は、転居や施設入所などを除けば年齢とともに上がるものですので、世代が上がるほど独居率が高まるのが容易に予想されます。



このような傾向は、今後ますます強まってゆくものと思われます。虹の会が目指す“住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けたい”という願いを実現するには、どうすればいいのでしょうか。

一つの方策として、国の施策としてすでに打ち出されている「地域包括ケアシステム」の構築が考えられます。地域包括ケアシステムとは、その地域にある保健・医療・介護・福祉の関係者が連携してサービスを提供するものですが、この「関係者」の中に地域住民も積極的に参加するのが理想的であるとされています。

さいわいなことに、新木地区では、住民有志によって2012年に設立された「新木野高齢者見守りネットワーク」によって孤独死防止と日常のさり気ない見守り活動が定着しつつあります。また、見守りネットワークから派生する形で地域交流施設「ふらりえ新木野」もオープンし、現在は50名を超えるサポーターの方々が運営を支えています。このように、住民の皆さんの地域活動への参加意欲が高いことが、新木地区の強みではないでしょうか。この強みをうまく生かすことで、地域包括ケアシステムの構築が進むことと期待しています。

地域活動へ参加される方々の多くは60代以上で、今後は、もっと若い世代にも地域づくりに参画してもらえそうな働きかけが課題になってくると考えられます。

虹の会 ニュース 第50号

2015.11.1 発行

編集発行 特定非営利活動法人 虹の会
 TEL 04 (7179) 3133
 FAX 04 (7179) 3130
 〒270-1114 我孫子市新木野 3-32-15
 郵便振替口座 00180-0-592018

第50号の発行によせて

2003年8月に第1号を発行してから12年。年4回のペースで私たちの折々の取り組みを皆様にお届けしてきました。当初は職員の手が足りずボランティアの佐々木美津子さんをお願いしてきたニュースの発行作業も、45号からは自前で編集できる体制が整いました。

ひとえに12年といいますが、介護保険制度の度重なる変化を必死に追いかけてながら、地域に根差した「宅老所 虹の家」として“いつまでも自宅に住みたいね”を支援してきました。これも会員の皆様、ご利用者およびご家族の皆様、地域の皆様方の温かいご支援の賜物と心より御礼申し上げます。そして私どもの運営推進会議がきっかけとなって新木野高齢者見守りネットワーク活動が展開され、今年2月には地域の居場所「ふらりえ新木野」がオープンしたことはうれしい限りです。

敬老の日を前に、総務省の発表によると65歳以上の高齢化率は26.7%で過去最高、80歳以上は前年比38万人増の1002万人（7.9%）で初めて1000万人を越えたとのこと（4面の「数字に見る新木地区の人口構成」の記事もぜひ参照してください）。

話は変わりますが、H27.9.7天声人語を紹介します。

『くさか理樹さんの漫画「ヘルプマン！」（週刊朝日に連載中）は、創作とはいえノンフィクションのように真に迫る。介護という仕事がいかに深く、創造性に富むかを教えられる。仕事がきついというイメージがある中、介護職の素晴らしさをより多くの人に知ってほしいとの思いがある。作品に登場する一つのキーワードは「生きるスイッチ」だろう。認知症の人は周囲の視線に傷つき、心を閉ざし、いつか自分でスイッチを切ってしまう。それを再び押しあげて、本来の姿に戻す、これぞ介護職の役割だというメッセージが伝わる。（後略）』

今一度、ご利用者さんおひとりおひとりの「生きるスイッチ」を私たちは押しているだろうかと思問した次第です。

高井 睦美

防災訓練が開催されます

11月15日（日）、新木団地・あらき野両自治会による合同防災訓練が開催されます。

虹の会では例年通り、新木野高齢者見守りネットワークと連携して車椅子の取扱い講習を実施いたします（写真は昨年度の様子）。台風や大地震などの災害が発生した際に新木小学校まで自力での徒歩避難が困難かと考えられる方々が、この地域には多くお住まいです。普段から車椅子の操作に慣れておくことも、皆さんが安心安全に暮らせる街づくりの一助を担います。この機会にぜひお出かけ下さい。



11月15日（日）9時～
 道崎公園（雨天時はあらき野自治会館「しらさぎ」）にて
 通報訓練・初期消火訓練・AED操作・応急担架体験ほか

私の看取り体験記

巢山 廣子

「私は尊厳死協会の会員です。死には自分の望み通りにさせて下さい。」あと一週間位の命ですと云われて退院した巢山が十ヶ月余を自宅で意のままに過ごし、此の上ない笑顔をして此の世を去った。

その間を考える時、彼自身の強固な意志と、それを尊重し何でもいつでもどんな時でも笑顔で寄りそって下さっていたヘルパーさん達に想いを致す。「そんなに虹の家がいいのなら、もうずっと泊まりこんだら！」という私。「それはいやだ」という彼。そのうち通うことも困難になり、毎日朝夕のおむつ交換の時を楽しみに待つような状態から、七八月の酷暑を通り抜け、大声で笑うのも虹の家のヘルパーさんとだけになっていった。

今の世の中の流れは「在宅介護で看取りまで」と事も無げに云うけれど直面した私の実感は、「口で云うは易く…」今ふり返って、家族の心のケアまで考えて私たちに接して下さり、その他関係機関の様々な皆さまとの連携をとる中心的役割を果たし、暖かな心配りをしてくださったケアマネさんを中心とした虹の家の皆さんが居て下さった事と、共に家族とその周りの人々と同じ目的意識を持つての心の繋がりがあった事でのみ成立するものだと心底思います。

終わりに、最後まで私の心を支えて下さった方々に万感の感謝を捧げます。



外食にお連れした際の巢山さんご夫妻
(今年5月)



10/7 たまりんばの光景。編み物をしたりおしゃべりをしたりお菓子をつまんだり…皆さん思い思いに過ごしています。



8/28 昨年に引き続き、浴衣納涼会を開きました。8月にしては涼しい日でしたが、皆さんかき氷をペロリと平らげました。



10/9 認知症予防に効果があるといわれる回想法を行っている光景です。懐かしい写真を見ながら昔話に花を咲かせます。



9/30 皆さん連れだって川の向こうまで散歩に出かけました。

「虹の会ニュース」も今回で節目の50号。今後、100号、200号と続けられるように、さらなる飛躍を目指します。次の世代の虹の会・虹の家を支える新入職員と介護主任をご紹介します。

10月より、正式に介護主任をさせていただくことになりました。常に利用者さんの立場に立って、お一人おひとりが気持ちよく通ってきていただけるよう、また、ご自宅でも安心して暮らしていただけるよう、職員一同、協力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

日向直子

新木野に家族六人で住んでいます。地域の中の「虹の家」で働かせていただくことになり、大変うれしいです。ご利用者さんの手助けができるように、早く仕事に慣れるように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

越後和恵



10/21 毎年恒例、双葉保育園との交流会。虹の家サロンの皆さんも参加して、最大88歳差の交流を楽しみました。



10/1 ボランティアさんが作ってくれたバルーンアートで風船バレーをしました。

